

浄土真宗本願寺派

そ う じ ょ う ご ん き ょ う

葬場勤行

意訳・作法説明付

○は導師一人で読みます ●より共に読みましょう

帰敬式(おかみそり)

仏弟子になる儀式。生前に受式された方は行わない

出棺勤行

棺が自宅を出る前に行う。葬場勤行と併修が多い。

合掌・礼拝・経本を頂く キン二打

帰三宝偈

善導大師著。観無量寿経を注釈された観経疏の始め

に記される。仏・法・僧の三宝に帰依し阿弥陀仏の

極楽浄土への往生を勧められる。

どうぞくじしゅうとう

○道俗時衆等

今を生きる人々よ、

世尊我一心

御仏よ、私は心を一にし、

●各発無上心

自らの力で苦しみ悩みから抜け出そうとしても、

歸命尽十方

全ての世界の御仏や菩薩方を拠り所といたします。

生死甚難厭

甚だ難しい。人生は思うようにいかな

法性真如海

我々の認識を超えた真理の御仏、

仏法復難欣

我らを目当てとした阿弥陀仏を受

報化等諸仏

姿形として現れた御仏、

共発金剛志

それも承知で我らをすくいたいと誓

一一菩薩身

あらゆる菩薩方、

横超断四流

煩惱の流れを断ち、超えさせていた

眷属等無量

無数の仕える方々、

願入弥陀界

阿弥陀仏の極楽浄土に生まれたいと

莊嚴及變化

美しく飾られた菩薩や我らの為に変

歸依合掌礼

阿弥陀仏を依り所とし、合掌し念仏

十地三賢海

さまざまな段階の菩薩方、

じこうまんみまん
時劫満未満

修業期間を終えた方や終えていない
方々、

そうおういちねんご
相応一念後

それに叶う一瞬の後に、

ちぎようえんみえん
智行円未円

智慧ちえと修行が完成した方やそうでな
い方々、

かどくねはんしや
果徳涅槃者

さとりをひらかれる方々を扱あつかり所と
いたします。

しょうじじんみじん
正使尽未尽

煩惱ぼんのうが無くなつた方やそうでない
方々、

がとうげんきみよう
我等咸歸命

我らは皆、

じゆつけもうみもう
習氣亡未亡

煩惱の慣習が無くなつた方やそうで
ない方々、

さんぶつぼだいそん
三仏菩提尊

全ての御仏みほとけを扱あつかり所といたします。

くゆうむくゆう
功用無功用

努力して仏道ぶつどうを歩む方や自然と歩
む方々、

むげじんずうりき
無碍神通力

何物にも妨げられない大いなる力で

しょうちみしょうち
証智未証智

さとりを得た方やそうでない方々、

みようがらんしょうじゆ
冥加願摂受

我らを護り、おさめ取りください。

みようがくぎゆうとうがく
妙覚及等覚

最上位の菩薩ぼさつや次の段階の菩薩ぼさつ方、

がとうげんきみよう
我等咸歸命

我らは皆、

しょうじゆこんごうしん
正受金剛心

まさしく阿弥陀仏あみだぶつの信心をいただ
き、

さんじようとうけんしょう
三乗等賢聖

御仏みほとけの教えを聞ける方や独りで悟れ
る方や他を救うために努力する菩薩ぼさつ

がくぶつだいひしん
学仏大悲心

方など、御仏の大慈悲心を学び、

ちようじむたいしや
長時無退者

永く仏道を退くことがない方々を擁
り所といたします。

しようがんようかひ
請願遙加備

願わくは不思議な力によつて、

ねんねんけんしよぶつ
念念見諸仏

一念一念に御仏をお見せください。

がとうぐちしん
我等愚痴身

我らは愚かであり、

こうごうらいるてん
曠劫来流転

はるか昔より迷いの世界へと生まれ
変わりを繰り返していましたが、

こんぶしやかぶつ
今逢釈迦仏

今、お釈迦様が残された教えのおか
げで、

まつぼうしゆいしやく
末法之遺跡

混迷の時代にふさわしい教えである、

みだほんぜいがん
弥陀本誓願

我らを目当てとした阿弥陀仏の
本願や、

ごくらくしようもん
極樂之要門

極樂浄土への門に逢うことができま
す。

じようさんとうえこう
定散等回向

そこに行くための修行の功徳を等し
くいただき、

そくしやうむししようしん
速証無生身

速やかにさとりを得ます。

がえぼさつぞう
我依菩薩藏

私は菩薩の教えや、

とんぎよういちじようかい
頓教一乘海

速やかに仏になる教えやあらゆる者
が仏になる教えによつて、

せつげきさんぼう
説偈歸三宝

この帰三宝偈を説き、三宝である
御仏とみ教えとそれを聞く方々を擁

よぶつしんそうおう
与仏心相応

り所とし、御仏のおこころをいただき
ます。

じつぼうごうじやぶつ
十方恒沙仏

ガンジス河の砂の数ほどの無数の
御仏よ、

キン一打

ろくつうしようちが
六通照知我

すべての神通力で私をお照らし下さ
い。

なまんだぶ
○南無阿弥陀仏

キン一打

こんじようにそんぎよう
今乗二尊教

今、お釈迦様と阿弥陀仏のお導きに
より、

なまんだぶ
●南無阿弥陀仏 ×5 キン一打

こうかいじようどもん
広開浄土門

広く極楽浄土への門を開くことがで
きます。

がせびそん くだくじ
○我説彼尊 ●功德事

私は阿弥陀仏の功德を説く

がんにしくどく
願以此功德

願わくはこの功德によつて、

しゅぜんむへんによかいすい
衆善無辺如海水

諸々の善は海のごとくへだて
ない。

びようどうせいっさい
平等施一切

平等に一切に施し、

しよぎやくぜんこんしやうじようしや
所獲善根清浄者

その清らかな善を

どうほつぼだいしん
同発菩提心

同じく阿弥陀仏のすくいをいただき、

えせしゅじようしやうひこー
廻施衆生 生彼国

皆にわけて、極楽浄土に往
生しましょう。

おうじようあんらくこく
往生安楽国

極楽浄土に往生しましょう。

キン三打 経本を頂く・合掌・礼拝

合掌・礼拝・経本を頂く キン二打

三奉請

○奉請弥陀如来入道場●散華樂

ぶじょうみだによらいにうどうじょう さんげらく
あみだによらい

阿弥陀如来、花を降らしお迎えいたします。

○奉請釈迦如来入道場●散華樂

ぶじょうしゃかによらいにうどうじょう さんげらく
しゃかによらい

釈迦如来、花を降らしお迎えいたします。

○奉請十方如来入道場●散華樂

ぶじょうじつぽうによらいにうどうじょう さんげらく
ほとけがた

全ての仏方、花を降らしお迎えいたします。

キン一打 作相・焼香 キン二打 表白 キン一打

正信偈

親鸞聖人著 阿弥陀仏のすくいをまとめ、

それを伝えた七人の高僧を讃えています。

●南無不可思議光

なもふかしぎこうら

●南無不可思議光

ほうぞうぼさついににじー

法蔵菩薩因位時

ざいせいざいおうぶつしよー

在世自在王仏所

とけんしよぶつじようどいーん

觀見諸仏淨土因

こくどにんでんしぜんまーく

国土人天之善惡

こんりゆうむじようしゆしやうがーん

建立無上殊勝願

ちようほつけーうだーいぐぜーい

超発希有大弘誓

いつでも共におられる阿弥
陀如来が扱だにり所です。

どこでも共におられる阿弥
陀如来が扱だにり所です。

阿弥陀如来が法蔵という菩
薩であられた時のこと
です。

師の世自在王仏せじざいおうぶつに導かれ、
様々な仏ぶつの国の成り立ち

や、往き方を学ばれ、その
国に住む人々をよく觀察さ

れ、まだすくいから漏れて
いるものがあることを知り

ました。
そして誰一人もらすことな

くすくうための願いを立て

〇五劫思惟之摂受

五劫もの永い間、思案を重ね、四十八の願を誓われ、

●重誓名声聞十方

重ねて南無阿弥陀仏と名となり声となり、すべてに聞

普放無量無辺光

かせたいと誓われ阿弥陀如来と成られました。その光

無碍無对光炎王

は、限りなく、境がなく、遮るものがなく、ならぶも

清浄歡喜智慧光

のがなく、光の王であり、清らかで、よろこびに満

不断難思無称光

ち、全てを見通し、絶之間なく、我々の考えや言葉は

超日月光照塵刹

はるかに及ばず、太陽や月をも超えた光で、すみずみ

一切群生蒙光照

まで照らし、すべてのものが照らされています。

本願名号正定業

その証として南無阿弥陀仏と私の口から出るのです。

至心信樂願為因

その念仏は仏の喚び声と聞くことがすくいの源です。

成等覺証大涅槃

この迷いの身がいのちを終え、極樂へ生まれるのは、

必至滅度願成就

必ずさとりに導くぞとの願が成就されたからです。

如来所以興出世

お釈迦様や多くの仏が世にお出ましになられたのは、

唯說弥陀本願海

ただ阿弥陀如来の本願を説くためです。

五濁惡時群生海

わかっちゃいるけどやめられない迷いに生きる人は、

応信如来如実言

阿弥陀如来のはたらきに委ねるより他にありません。

のうほついちねんきあひしーん
能発一念喜愛心

ふだんほんのうとくねはーん
不断煩惱得涅槃

ほんじようぎやくほうさいえにゆーう
凡聖逆誘齊廻入

によしゆしにゆうかいいちみー
如衆水入海一味

せつしゆしんこうじようしよーごー
攝取心光常照護

いのうすいはむみようあーん
已能雖破無明闇

とんないしんぞうしうんむー
貪愛瞋憎之雲霧

じよーふしんじつしんじんてーん
常覆真實信心天

そのはたらきは煩惱盛んな
私の為と慶べる時、煩惱抱

えたままで、さとりを得る
身と如来はさせるのです。

凡夫も聖者も、極悪人も、
このはたらきに任せれば

どの川もやがて同じ海にな
るように、同じさとりを得

ます。すくいのは常は常に照
らしているのです、

迷いの闇はすでに破られて
いるのですが、

貪りや怒りなどの煩惱が、
雲や霧のように、

常に真実の信心の空を覆つ
ています。

ひによにつこうふうんむー
譬如日光覆雲霧

うんむしげみようむあーん
雲霧之下明無闇

ぎやくしんけんきようだいぎようきー
獲信見敬大慶喜

そくおうちようぜつごあくしゆー
即横超截五惡趣

いつさいぜんまくほんぶにーん
一切善惡凡夫人

もんしんによらいくぜいがーん
聞信如来弘誓願

ぶつごんこうだいしようげしやー
仏言広大勝解者

ぜにんみよーふんだりけー
是人名分陀利華

しかし、雲や霧が日光を遮
っていたとしても、その下

は、暗闇ではないように、
如来に照らされています。

信心を賜り、如来のはたら
きを慶ぶ人は、

すぐに迷いの世を離れるこ
とが定まる身となります。

どのような人であろうと
も、阿弥陀如来の本願は私

の為であったと聞いて疑い
なければ、

仏は、優れた智慧者である
とたたえられ、泥の中で白

い花を咲かせる白蓮華のよ
うだと称賛されます。

みだぶつほんがねんぶ一つ
弥陀仏本願念仏

阿弥陀如来のはたらきは、

自分には関係がない、不都合

じゃけんきようまなくしゅじよーら
邪見憍慢悪衆生

合は起こらないと考えてい
る人には、

しんぎようじゅじんにな一ん
信樂受持甚以難

それを信じ、保ち続けるこ

とは甚だ難しいことです。

なんちゆうしなんむかし一
難中之難無過斯

難中の難、これ以上難しい

ことはないのです。

いんどさいてんしろんげ一
印度西天之論家

西方のインドの菩薩方や、

中国、日本の高僧方が、

ちゆうかじちいきしこうそ一
中夏日域之高僧

お釈迦様がこの世におでま

しになられた本当の意味を

けんだいしよこうせしよーい一
顕大聖興世正意

顕され、阿弥陀如来の本願

は、まさに凡夫の私にこそ

みようによらいほんぜいおうき一
明如来本誓応機

ふさわしい教であると思

らかにされたのです。

しやかによらいようがせ一ん
釈迦如来楞伽山

お釈迦様が楞伽山におい

て、多くの人々に言われま

いしゅごうみよなんてんじ一く
為衆告命南天竺

した。「いづれ南インドに、

りゅうじゅだーいじしゅつとせ一
龍樹大士出於世

龍樹菩薩が現れて、固執し

偏った考えをことごとく打

しつのうざいはうむけ一ん
悉能摧破有無見

ち破り、すべてのものを乗

せる至極の大乗仏教を説

せんぜつだいていじよむじようほ一う
宣説大乘無上法

き、後戻りのすることのな

い歡喜地に至り、安樂（極

しようかんぎじしよあんなら一く
証歡喜地生安樂

楽）浄土に至るであろう」

と。龍樹菩薩は、自らを当

けんじなんぎようろくろ一く
顕示難行陸路苦

てにする行は、山谷を超え

るような困難な道であり、

阿弥陀如来の他力の行は、

しんぎよういぎようしいどうら一く
信樂易行水道楽

大きな船で進むような易し

い道と説かれました。

おくねんみだぶつほんがーん
憶念弥陀仏本願

じねんそくじにゆうひつじよーら

自然即時入必定

ゆいのうじようしよらによらいじーら

唯能常称如来号

おうほうだいーひぐぜいおーん

応報大悲弘誓恩

てんじんほさつぞうろんせーつ

天親菩薩造論説

きみようむげこうによらーい

歸命無碍光如来

えしゆたらけんしんじーつ

依修多羅顯真実

こうせんおうちようだいせいがいーん

光闡横超大誓願

あみだにょらいほんがーん
阿弥陀如来の本願を疑いな
く信受すれば、弥陀のほかに
らいにより、自ずと仏にな
る位に定まります。

ですから、ただひとえに

なもあみだぶつ
南無阿弥陀仏と称えて、

にょらいだいびおんごく
如来大悲の恩徳に、報いる

べきですと説かれました。

いんどのてんじんほさつ
インドの天親菩薩は『浄土
論』という書物を著され、

むげこうにょらいあみだにょらい
無碍光如来（阿弥陀如来）

に帰依しますと告白されま

した。大無量寿経に基づい

て真実を顕かにされ、凡夫

がすぐわれる阿弥陀如来の

誓願を広く説かれました。

こーらゆほんがーんりきえこーら
広由本願力廻向

いどぐんじようしよらいつしーん

為度群生彰一心

きにゆうくどくだいほうかーい

歸入功德大宝海

ひつぎやくにゆうだいせいゆしゆー

必獲入大会衆数

とくしれんげぞうせかーい

得至蓮華蔵世界

そくしよらしんによほつしよらじーん

即証真如法性身

ゆうほんのうりんげんじんずーら

遊煩惱林現神通

にゆうしよらじおんじおうげー

入生死園示応化

ほんがーんりきえこーら
本願力の回向によつて、一
切がすぐわれることを示す

しんじんあきつら
為、疑いなく受け入れる
信心を彰かにされました。

あみだにょらい
宝の海のような阿弥陀如来

の功徳に入ると、
必ずや仏に成る位に定まる

のです。

ごくらくじよらどおうじよら
極楽浄土に往生すれば、

ただちにさとりをひらき、

はんのう
煩惱のこの世界に還り、神

ずうりき
通力を用いて、様々な姿と

なつて、まよいの人々をす

くうと説かれました。

ほんしどんらんりょうてんしー
本師曇鸞梁天子

じょうこうらんしよぼぎつらーい

常向鸞処菩薩礼

さんぞうるしじゆじようきょーう

三蔵流支授浄教

ぼんじようせんぎようきらくほーう

梵焼仙經帰楽邦

てんじんぼさつろんちゆうげー

天親菩薩論註解

ほうどいんがけんせいがいがん

報土因果顕誓願

おうげんねこうゆたりーき

往還回向由他力

しょうじょうしいんゆいしんじーん

正定之因唯信心

中国の曇鸞大師は、梁の天子武帝が、

菩薩であると常に礼拝された方です。

ある時、菩提流支三蔵から浄土の經典を授けられ、長

寿の為の仙經を焼き捨て、浄土の教之に入りました。

天親菩薩の『浄土論』に注

釈を加え、浄土への因も果も、阿弥陀如来の誓願によ

ると明らかにされました。

往くも還るも阿弥陀如来によつて回向されるので、

往生の因は、ただ疑いなく受け入れる信心一つです。

わくぜんぼんぶしんじんぼーつ
惑染凡夫信心発

しよーうちしよーじそくねはーん

証知生死即涅槃

ひつしむりょうこうみょうどー

必至無量光明土

しよーうしゆじようかいふけー

諸有衆生皆普化

どうしやくけつしよーどうなんしよーう

道綽決聖道難証

ゆいみょうじようどかつうにゆーう

唯明浄土可通入

まんぜんじりきへんごんしゆーう

万善自力貶勤修

えんまんたくこうかんせんしよーう

円満徳号勸専称

煩悩に染まる凡夫も、この信心を賜れば、まよいの身

がそのまま、さとりを開く身とさせていただけます。

そして、かならずや光満ち溢れる極楽浄土に至り、

あらゆるものを導くことができる

と説かれました。

中国の道綽禪師は、自力の聖道門でのさとりは難しく

ただ浄土門こそ、さとりの道と明らかにされました。

自力で修行をしても、到底達成できず、完全な功德を具えた南無阿弥陀仏を専ら

称えることを勧めました。

さーんぶさんしんけおんごーん
三不三信誨慙

ぞうまつほうめつどうひいーん
像末法滅同悲引

いっしょうぞうあくちくぜーい
一生造悪値弘誓

しあーんによーうがーいしよみよーうか
至安養界証妙果

ぜんどうどくみよぶつしようい
善導独明仏正意

こうあいじようさんよぎやくあく
矜哀定散与逆悪

こうみようみようこうけんいんねん
光明名号顕因縁

かいにゆうほんがんだいちかい
開入本願大智海

素直で、二心なく、継続す
ることを懇ろに説かれ、ど

んな時代でも如来の大悲は
届くを明らかにされました

一生悪を造ろうとも、阿弥
陀如来の弘誓に遇い疑いな

ければ極樂に往生しさと
りを開けると説かれました。

善導大師は独り『觀經』の
釈尊の心を明かされました

修行者、善に励む者、悪を
犯す者、すべてを哀れみ、

如来の光明と名号がすくい
の因縁と明かされました。

本願の大きいなる智慧の海に
入り、

ぎようじやしようじゆこんごうしん
行者正受金剛心

きようきいちねんそうおうご
慶喜一念相應後

よいだいとうぎやくさんにな
与韋提等獲三忍

そくしようほつしようしじようらく
即証法性之常樂

げんしんこうかいいちだいきよ
源信広開一代教

へんきあんにようかんいつさい
偏帰安養勸一切

せんぞうしゆうしんはんせんじん
専雜執心判淺深

ほうけにどしようべんりゆう
報化二土正弁立

こんごうせき
金剛石のように堅固な信心
を賜り、

如来も微笑むような慶びが
起きたものは、『觀經』の

韋提希夫人と同じ、喜び、
さとりに、信順の三忍を獲、

やがて極樂に往生し、すぐ
に仏となると説かれました

日本の源信和尚は、仏教を
広く学ばれた中で、

ひとえに浄土を願ひ、すべ
ての人に勧められました。

専ら本願を信じ念仏をする
人は報土へ、その他の行を

交える人は化土へ生まれる
と判別し、示されました。

ごくじゅうあくにんゆいしよづつ

げんらいしよじりんでんげ

極重悪人唯称仏

極重の悪人は、ただ南無阿彌陀仏と称えるべきです。

還来生死輪転家

迷いの世界へ生まれ変わり
を繰り返すのは、
阿彌陀如来の本願を疑うか
らです。

がやくざいひせつしゆちゆう

決以疑情為所止

速やかにさどりの世界に入る
ためには、本願を疑いな
く受け入れる信心のみです
と説かれました。

ぼんのうしよげんすいふけん

速入寂靜無為樂

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

煩惱障眼雖不見

必以信心為能入

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

だいひむけんじしよしよが

弘經大士宗師等

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

大悲無倦常照我

極濟無辺極濁惡

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

ほんしげんくみしよづつきしよ

道俗時衆共同心

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

本師源空明仏教

唯可信斯高僧説

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

れんみんぜんまくぼんぶにん

唯可

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

憐愍善悪凡夫人

道俗

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

しんしゆうきしよしよこうへんしゆう

道俗時衆共同心

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

真宗教証興片州

唯可

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

せんじやくほんがんであくせ

唯可

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

選択本願弘悪世

唯可

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく
隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

キン一打

なまんだぶ

○南無阿弥陀仏

キン一打

なまんだぶ

●南無阿弥陀仏

×5 キン一打

なもあみだんぶ

○南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

●南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

わさん
和讃

ほんがんにき

○本願力にあいぬれば

●むなしくすすぐるひとぞなき

●功徳の宝海みちみちて

煩惱の濁水へだてなし

如来浄華の聖衆は

正覚のはなより化生して

衆生の願樂

すみやかにとく満足す

苦しみ悩む私を目当てと

された、阿弥陀仏のすく

いに気が付かせていただ

きますと、むなしくはあ

りません。阿弥陀仏の

功徳はみちみちて、私の

ところに届いているので

す。

阿弥陀如来の蓮華の座に

おられる方々は、迷いを

断ってお生まれになりま

した。極楽浄土に生まれ

たいという願いがござ

とく、すみやかに満たさ

れたお姿なのです。

願がんにしくどく以此功德

どうかこの阿弥陀如来の

功德によって

平等施一切

平等に届く阿弥陀如来の

御名を聞き

同発菩提心

共にこれをよろこび

安楽（極楽）浄土に、

往生安楽国

往生させていただきまし

よう

キン三打 経本を頂く・合掌・礼拝

還骨勤行

遺骨を安置して行う勤行

重誓偈

法蔵菩薩（後の阿弥陀仏）の誓い

の要点をまとめた偈『大無量寿経』より

○我建超世願

キン二打

●必至無上道

私（法蔵菩薩）はまことに勝れた願を建てた。

斯願不満足

必ずやこの上ない悟りを得ようもしこの願いを満たすことができないならば

誓不成正覚

私は決して仏とはならない

我於無量劫

私は遙かなる時をかけて

不為大施主

大いなる恵みの主となり

普濟諸貧苦

あらゆる人々の苦しみを除くことができないならば

誓不成正覚

私は決して仏とはならない

がしじょうぶつどう
我至成仏道

私が仏（阿弥陀仏）となり

みょうしょうちょうじつぽう
名声超十方

私の喚び声（南無阿弥陀仏）がすべてを超えて

くきょうみしよもん
究竟靡所聞

あなたの元に届かないならば

せいふじょうしょうがく
誓不成正覚

決して仏とはならない

りよくじんししょうねん
離欲深正念

私は欲を離れ、心穏やかに

じょうえしゆほんぎょう
浄慧修梵行

清らかな智慧を得、行を修め

しぐむじょうどう
志求無上道

この上ない道を求めて

あらゆる天人や人々の師となろう

いしよてんにんし
為諸天人師

じんりきえんだいこう
神力演大光

大なる光を放ち

ふしょうむさいど
普照無際土

世界の隅々まで照らし

しょうじよさんくみょう
消除三垢冥

煩惱の垢を除き

こうさいしゆやくなん
広濟衆厄難

多くのものをすくおう

かいひちえげん
開彼智慧眼

智慧の眼を開き

めつしこんもうあん
滅此昏盲闇

迷いの闇を滅し

へいそくしよあくどう
閉塞諸惡道

迷いへの道を閉ざし

つうだつぜんしゆもん
通達善趣門

悟りの門を開こう

こうそじようまんぞく
功祚成満足

くどく
功德を満みたした仏ぶつと成なつて

いようろうじつぼう
威曜朗十方

その光は全てを照らし

にちがつしゅうじゅうき
日月戢重暉

太陽や月ですらも光りに覆われ

てんこうおんふげん
天光隱不現

天人の輝きも隠れるだろう

いしゆかいほうぞう
為衆開法藏

人々の為に教えを説き明かし

こうせくどくほう
広施功德宝

くどく
功德の宝を広く施せそう

じようおだいしゆちゆう
常於大衆中

私は常に人々の中にいて

せつぼうししく
説法師子吼

勇敢に教えを説こう

くよういつさいぶつ
供養一切仏

あらゆる仏ぶつを供養くようし

ぐそくしゆとくほん
具足衆徳本

あらゆる功德くどくを具ぐえ

がんねしつじようまん
願慧悉成満

がん
願も智慧ちえも悉ことごとく満まんたし

とくいさんがいお
得為三界雄

あらゆる世界で最も優れたもの
となろう

によぶつむげち
如仏無礙智

何者にも妨げられない智慧ちえによつ
て

つうだつみふしよう
通達靡不照

闇を照らす仏ぶつのように

がんがくえりき
願我功慧力

願わくば私の力も

とうしさいしようそん
等此最勝尊

仏ぶつと同じようでありたい

しがんにやつこつか
斯願若剋果

この願いを果たし遂げたならば

だいせんおうかんどう
大千応感動

世界は感動して

こくうしよてんにん
虚空諸天人

大空から天人達は

とううちんみようけ
当雨珍妙華

雨の様に美しい花を降らすだろう

なまんだぶ

キン一打

○南無阿弥陀仏

キン一打

なまんだぶ

●南無阿弥陀仏

キン一打

×5

がんにしくどく

どうかこの阿弥陀如来の功德に

○願以此功德

よつて

びようどうせいっさい
●平等施一切

平等に届く阿弥陀如来の御名
を聞き

どうほつぼだいしん
同発菩提心

共にこれをよろこび

おうじようあんらつこ
往生安楽国

安楽(極楽)浄土に、往生させて
いただきましょう

キン三打 経本を頂く・合掌・礼拝

ごぶんじよう はつこつじよう
御文章 白骨章

れんによしようにん
蓮如上人の手紙

それ、人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、

おおよそはかなきものは、この世の始中終、ま

ぼろしのごとくなる一期なり。さればいまだ

万歳の人身を受けたりということをかきかず。

いっしょうす

一生過ぎやすし。いまにいたりて、たれか

ひやくねん

ぎょうたい

百年の形体をたもつべきや。われや先、人や

さき

きょう

先、今日ともしらず、明日ともしらず、おく

ひと

れさきだつ人は、もとのしづく・すえの露より

もしげしといえり。されば、朝には紅顔あり

て、夕には白骨となれる身なり。すでに無常

ゆうへ

はつこつ

み

むじょう

の風きたりぬれば、すなわちふたつのまなこ

かせ

たちまちに閉じ、ひとつの息ながくたえぬれ

と

いき

ば、紅顔むなしく変じて桃李のよそおいを失

こうがん

へん

とうり

うしな

いぬるときは、六親眷属あつまりてなげきか

ろくしんけんぞく

なしめども、さらにその甲斐あるべからず。さ

か

い

てもあるべきことならねばとて、野外におく

やがい

りて夜半の煙となしはてぬれば、ただ白骨の

よわ

けむり

はつこつ

みぞのこれり。あわれというもなかなかおろか

なり。されば、人間のはかなきことは老少

ろうしやう

不定のさかいなれば、たれの人も、はやく

後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏を深く

たのみまいらせて、念仏申すべきものなり。

あなかしこ あなかしこ

人の世の有様をよくよく考えてみると、まことに

はかないものは、この幻のような一生です。いまだ

万年も生きた人を聞いたことがありません。人

生はあつというまに過ぎていきます。このような時

代に百歳まで生きるのも稀です。私が先か、他の

人が先か、今日かも明日かもわからない命です。

遅れて行く人、先立つ人の数は草木の雫や露よ

19

りもはるかに多いのです。ですから、朝には顔が紅らんで元気な人でも、夕べには白骨となることはあるのです。無常の風が吹けば、目を閉じて、息が止まり、顔色も白くなつていきます。家族や親戚が集まつて嘆き悲しんでも、どうにもなりません。いつまでも悲しんではいられないので、火葬し煙となつてしまえば、あとは白骨が残るのみです。哀れという言葉では収まりません。なので、人間のはかなさは老いも若きも関係がないので、だれであつても一早く、いのちの行き先を深く考えて、私の人生をすべて抱えてくださる阿弥陀如来をあみだによらい扱なり所として、南無阿弥陀仏と念仏を申しまなしもようつ。